

港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

100号

FB 港北区災害ボランティア連絡会

2022年1月



*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

いつでも助け合える地域を目指して～年頭に思うこと～

あけましておめでとうございます。昨年もコロナに世界中が振り回された1年でした。最近の災害、特に気象災害と合わせて考えてみると、自然との付き合い方が難しくなっていると感じます。「人新世」との言葉が使われ出したように、人間の営みが地球環境に大きな影響を与え、それが私たちの生活に跳ね返ってきています。

それは防災啓発のポイントが、備蓄をしたり、ハザードマップを読み解くといった対策に加え、私たちの生活を見直し、地球全体を考えることも大切なことを物語っています。SDGsが世界中で叫ばれていることもそれと関連してきます。早く手をつけないと手遅れになると感じさせられる昨今の地球のしっぺ返しです。だからといって防災を難しくしてしまうと多くの人に取り組んでもらうのが難しくなります。楽しく、無理なく、でも大事なポイントを外さない防災啓発には知恵が必要です。地域に根づく団体である私たちは、そのための仕掛けを生活感覚を持って考えていきたいと思えます。

生命を守る備えを、被災しても助け合い、生き延びることができる地域づくりを目指して今年も活動していきましょう。
(港北区災害ボランティア連絡会 会長 宇田川 規夫)

港北区災害ボランティア連絡会 NEWS100号発行に寄せて

港北区長メッセージ

皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、この度港北区災害ボランティア連絡会ニュース100号の節目を迎えられたことに、心からお祝い申し上げます。

昨年10月には、東日本大震災以来10年ぶりに市内で震度5弱の地震が観測されました。幸い大きな被害が発生することはありませんでしたが、公共交通機関が長時間にわたって停止し、帰宅困難者が発生したため、区では菊名地区センターを帰宅困難者一時滞在施設として開設し、対応しました。7月の熱海における大規模な土石流をはじめ、風水害による甚大な被害も各地で頻発しています。また、コロナ禍においては、自然災害との複合災害も想定し、感染症対策も万全



にしておく必要があります。加えて、近い将来、首都直下型地震や南海トラフ地震が起きると予測されています。災害時の被害を少なくするため、平時においてはできることから一つずつ積み上げていくことが重要だと感じています。

毎年実施している「横浜市民意識調査」でも、11年連続で、「地震や台風などの災害対策」への要望が最も多く、今後ともあらゆる災害から、区民の皆様様の命と暮らしを守り抜くという思いを持っています。

しかしながら、災害時には行政職員や防災に携わっている地域の方々だけではなく、他都市から来られるボランティアの方々のご協力も必要です。日頃から、貴会においては、災害時のボランティア活動に向けて、研修や訓練に熱心に取り組まれ、区の防災力の強化に多大なるご貢献をいただいております。

(港北区長 鵜澤 聡明)

事務局長メッセージ

このたびは、港北区災害ボランティア連絡会ニュースが創刊 100 号を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

さて、自然災害はいつ・どこで起きるかわかりません。災害を防ぐことは出来ませんが、その後の対応により被害を出来るだけ軽減することは可能です。そのためには、平時からの備えとともに、災害後の共助・互助に向け区役所、ボランティア、社協等が地域の中で”顔の見える関係”をつくり、お互いの立場や役割をよく理解し適切に連携・協働する体制を整え、来るべき大災害に備えることが大切だと思います。本会においても、災害対策に伴う連携の要

ボランティア班メッセージ

港北区災害ボランティア連絡会ニュース 100 号記念、おめでとうございます。

近年は地震に限らず、平成 30 年の西日本豪雨など豪雨においても災害ボランティアの活動が大きく取り上げられ、災害ボランティアの重要性が認知されてきています。

特に近年の災害ボランティアの活動は、発災直後におけるがれきや泥の撤去、家の片付けなどの力仕事に留まらず、被災者の話を傾聴することやサロン実施のための支援など、被災者の気持ちに寄り添った息の長い支援も求められています。

被災者と支援者のニーズやスキル、思いを災害ボランティアセンターで丁寧に把握したうえでマッチングがされていることにより、被災地におけ

となる情報共有や災害ボランティアセンターの設置運営について、発災時の迅速かつ効率的な対応と平時からの備えとして、ICTを活用した情報システムの構築とその運用に必要な職員スキルの向上を図る試行を開始いたしました。

これからも、災害被害が無いことを祈りつつ、災害時には被災者の視点に立った円滑な支援活動を実施できるようにも備えに取り組みたいと考えています。

結びにあたり、これからも貴会の活動がますます充実し、さらに魅力ある会に発展されることを願ひましてお祝いの言葉といたします。

(港北区社会福祉協議会
事務局長 島本 洋一)

るこのような活動が円滑にいつていることを実感しています。

昨年以降コロナ禍で、連絡会のメンバーが十分に集まることができない環境においても、ZOOM などを活用して、継続的に会議を重ねられている貴会の皆さまの熱意を大変頼もしく感じています。

今後もより一層、貴会と区役所との連携を深めるとともに、災害への備えを強化していければと思います。引き続き、よろしく願いいたします。

(港北区こども家庭支援課・課長
ボランティア班 廣瀬綾子)



港北区災害ボランティア連絡会 NEWS の第 54 号以降のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

<https://kohoku-saibora.jimdofree.com/news> バックナンバー/

ホームページには右の二次元コードからもアクセス可能で



横浜市と災害時における施設等の提供協力に関する協定を締結しています

この取り組みは、2011年3月11日の東日本大震災の際に帰宅困難な方が多く発生したことを受け、災害時に帰宅が困難な方々へ一時的に施設を開放し、安全の確保と災害関連情報等を提供するためのものです。

<協定の主な概要>

- ◆ 地震により鉄道が一晩中全線運行停止となる場合には、帰宅困難者の受入れを開始します。
- ◆ 風水害その他の災害により鉄道が一晩中全線運行停止となる場合で、横浜市から要請があった場合には、受入れを開始します。
- ◆ 主な支援の内容は、一時滞在施設、水道水及びトイレの提供となります。

- ◆ 横浜市の用意した帰宅困難者用の物資(水缶、使い捨てトイレ、ビスケット、レスキューシート)を可能な範囲で備蓄します。

横浜市内のYMCAでは、横浜中央YMCA(関内駅)と湘南とつかYMCA(戸塚駅)が同じ協定を締結しています。

2021年10月7日10時41分に震度5弱の地震が発生しました。横浜北YMCAは業務時間が終了していたため、帰宅困難者を受け入れるための施設開放は出来ませんでした。災害発生時間により、施設開放ができないことも起こり得ることです。

(横浜北YMCA 館長 鴨下純久)

被災地経済支援タスク活動開始

イベントが皆無となって、今まで支援していた被災地グッズの販売ができなくなりました。そこで「被災地経済支援タスク」と銘打って積極的に知恵を出して支援を続けられるように新設されました。(宇田川)

～被災地のグッズを購入して支援をしよう～

コロナ以前は、区内のイベントなどで「被災地」から調達したグッズ(主として食べ物)を販売して、それを「買って、食べる」ことでの支援をお願いしていましたが、1年半以上もリアルなイベントがなく、その機会が失われていました。

このままでいいのか?!という宇田川会長の一声で始まった「被災地経済支援タスクチーム」。現地に外向くことも難しいので、せめて、何かを購入して少しでも支援につなげられないかと、災ボラの定例会にあわせて「ワカメ」(石巻 くじらのしっぽ)を取り寄せたり、11/21(日)のミニらくらく市では「かりんとう」(女川 きらら女川)や「海苔チップ

ス」(七ヶ浜)を販売してみました。

このまま、感染が収まり、地域でのイベントがどんどん開催され続けていけば、以前のように販売もでき、被災地の状況などもお伝えできるのでしょうか、そこがなんともわからないのが、このウイルスの困ったところ……

と嘆いていても何も始まらないので、災ボラとしては引き続き

- 毎月の定例会で販売

- イベントでの販売

を行うとともに

- 被災地各地のグッズをどうしたら取り寄せられるかといった情報発信などをしていきたいと思っています。

地震、津波、水害等の災害で「被災地」となってしまったところは日本各地にあります。今まで、災ボラが販売してきたものはいろいろありますが、それは「たまたま」出会ったものです。それを、ぜひ、多くの皆さまに知っていただければと思い、商品名、申込先、申込方法や支払い方法などをまとめて情報提供していく予定です。



こんなご質問もいただきました。

Q:被災地に直接コンタクトを取っていいものでしょうか？！

いいです！もちろんいいです！電話対応のみのところもありますが、ネットから購入できる場所もあります。

Q: 食べもの以外にもありますか？

あります、あります！「食いしんぼう」が多いからかなぜか「食べ物」が多いのですが、例えば「まけないぞう」(タオル)などもあります。

残念なことにもいろいろな災害によって被害を被った被災地は日本各地にあります。「少しでもそことつながれるように」「少しでも支援ができるように」私たち災ボラメンバーがまだ知らない被災地やグッズをご存じでしたら、ぜひ教えてください。

一緒にサポートしていけたら嬉しいです。ぜひ、よろしくお願いします！ (山口)

で、お手伝いが必要な方に「9時の位置にポテト、12時の位置にドリンク、3時の位置にハンバーガーを置きました」と声がけするわけです。そうすると、お手伝いが必要な方は、自分で手を伸ばして食べたり飲んだりできるわけです。「ありがとう、後は大丈夫です」と言われれば、お手伝いは完了です。

いつ、避難所で共同生活になるかわかりません。ちょっとした知識ですが、役に立つ時が来ると思います。

(岩撫)



知ってますか

クロックポジション

「どこかで聞いたことがある」「初めて聞いた」、様々かと思えます。

これは、視力の面でお手伝いが必要な方をサポートする際に使うノウハウです。

使用する場面は、食事のお手伝いです。食事のお手伝いをする際にも、相手は人間であるという尊厳を持って接して、無理矢理食べ物を口に運ぶということをしてはいけません。お手伝いをする方からご依頼があった場合は別ですが、では、どうするのか。「クロック」、つまり「アナログ時計」です。

お手伝いが必要な方を正面にして、左側が9時、正面が12時、右側が3時というわけです。ここでは、ハンバーガーショップで、ハンバーガー、ドリンク、ポテトを注文して、食事のお手伝いをすることを想定します。お手伝いが必要な方を正面に、9時の位置にポテト、12時の位置にドリンク、3時の位置にハンバーガーを置きます。ここ

注記

ハンバーガーセットの絵は、以下のサイトより使用許諾を受けました。<http://pic-aboo.com>

アナログ時計は、著作権フリーです。いずれも商用利用不可ですのでご注意ください。

【編集後記】

○100号記念おめでとうございます。「継続は力なり」ですね。年が明けて第6波が心配です。(鴨下)

○見落としがちですが、防災ヘルメットは樹脂が経年劣化するので使用期限があります。(室伏)

○防災には、助け合いの気持ちが常に必要です。今後ともよろしくお願いいたします。(岩撫)

○年末から正月にかけても地震が何回かありました。地域の皆さんで「減災」「防災」に向けて知恵を絞りだしましょう。(付岡)

○「クロックポジション」初めて知りました。ボーイスカウトの活動でゲーム的に取り入れることができないかと考えています。(中島)